

年 組 名前:

# 道志山林にフクロウ巣箱

## 横浜のビール会社設置



巣箱作りに取り組む横浜ビールの社員＝道志村

QRコード  
から動画を  
見られます



## 作物荒らす動物の駆除役に

クラフトビール醸造を手がける「横浜ビール（横浜市）」は、道志村の山林にフクロウ用の巣箱を設置している。同社は村内の農業グループと無農薬に近い野菜作りに取り組んでいて、畑の周辺に営巣させることで、作物を荒らすネズミなどの駆除役を担ってもらう。

〈森航平〉

同社は10年ほど前から、ビール製造過程で出るかすや、横浜市内の飲食店で出た生ゴミを堆肥に加工。村の農家らでつくる「ひゃくしょう会」（杉本秀明代表）と協力し、村内の畑での野菜作りに活用している。畑ではサツマイモやジャガイモ、落花生などを栽培し、ひゃくしょう会が提供する堆肥を、ミヤモグラとみられる動物に野菜

をかじられる被害が後を絶たず、頭を悩ませてきたという。竹内さんは、ひゃくしょう会メンバーと対策について相談。フクロウにネズミを捕ってもらう方法があることを知った。村内にもフクロウが生息しているといい、畑近くに巣箱を設置することに決めた。

11月には同社の従業員約30人が村を訪れ、村産スギの間伐材などで巣箱を5個作った。多くの野鳥用に比べ高さや倍の60センチにするなど、フクロウ用に合わせたサイズにした。

社員の野口瑠名さん（22）は「難しい工程もあったが手を動かすのは楽しかった。あとはフクロウが入ってくれたらいい」と感想。ひゃくしょう会の杉本代表も「若い人たちが村で楽しく作業してくれてよかった。道志と横浜のつながりがより強くなってほしい」と期待する。年内に全ての巣箱を設置する予定だ。

竹内さんは「道志と横浜がつながっているからこそ実現した取り組み。従業員には巣箱作りを通じて、人と人がつながることの重要性を感じてくれたらうれしい」と話した。

(2024年12月13日付 山梨日日新聞 17面)

### 問1

クラフトビール醸造の会社が、道志村の山林にフクロウ用の巣箱を設置した理由を教えてください。

.....

### 問2

農家らでつくる「ひゃくしょう会」と、この会社は、以前から、どのような関係がありますか。

.....

.....

### 問3

フクロウの巣箱は、野鳥の巣箱と比べ、どこが違いますか。

.....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.